

朋友

ほうゆう

第16号

2016(平成28)年
3月28日発行

発行所
京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 田 仲 隆 行

「朋友」とは、同信のなから。
2008(平成20)年4月の仏教壮
年会連盟発足にあたり、仏壮
会員が力を合わせ、ともに歩
みを進めていこうという願い
から名づけられました。

「伝灯奉告法要ご修行にむけて」

仏教壮年会連盟講師

高橋 哲了



2016(平成28)年10月1日より、2017(平成29)年5月31日まで2カ年に亘り、全10期80日80座の伝灯奉告法要がご修行になります。伝灯奉告法要とは親鸞聖人のお示しくださった、阿弥陀如来の御本願のハタラクであるお念仏のみ教えが、歴代門主のもと連綿と受け継がれ、このたび第25代専如ご門主に伝えられたことを仏祖の御前に告げられる法要であります。また、法要ご修行の意義として、ご門主は「伝灯奉告法要について

の消息」の中で「このたびのご法要が、親鸞聖人によって明らかにされた阿弥陀如来の救いのはたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います」と、ご教示くださっています。そしてそのためには、「凡愚のまま振め取って捨てないとはたらき続けていくくださる阿弥陀如来のお慈悲を聞信させていただき、その有り難さ尊さを一人でも多くの方に伝えることが大切です」と

お示しくださっています。仏教壮年会連盟綱領の中に、「自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ」とある部分がこのお示しにあたり、と思いますが、組織拡充の現実に想いを巡らす時、只々反省のみで忸怩たる思いを禁じ得ません。

続いて「それとともに仏智に教え導かれていく念仏者として、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいく必要があります」とご指摘くださいます。2016(平成28)年度の仏教壮年会連盟の活動方針の中に「あらゆる社会の問題に関心を持ち、念仏者としての行動を起こし」とありますが、単に念仏者でなく「仏智に教え導かれていく念仏者、すなわち仏教壮年としての」という自覚をもつことの大切さを改めてお聞かせいただいたことであります。そして最後に「まさにこのような営みのさきにこそ、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する道が開かれていくのである」と綱領の「心豊かに生きる社会の実現をめざします」という言葉の方向性を明らかにし

教えていただきます。

ご消息を頂きながら、今までの自らの行動を再点検し、仏智に教え導かれていく仏教壮年としての新たな自覚と行動の必要性を痛感している次第であります。

さて、この度の法要参拝は前々回の「親鸞聖人750回大遠忌法要記念第20回全国仏教壮年大会」の時とは異なり、全国の仏教壮年が一同に会して法要に参拝する運びとはなりません。かわりに法要第2期の10月22日「仏教壮年会連盟教区代表者参拝」が実施されることとなっております。しかしながら代表者参拝のみにとどまらず、全国の仏教壮年会連盟の皆様が、それぞれの機会を捉えて法要参拝をなさることは可能であると思います。お一人おひとりが、それぞれのお立場で法要にご参拝くださり、仏教壮年として、永きに亘ってお育てを賜りました前門様のご苦勞に感謝し、ご門主のご教示を体して、仏教壮年としての自覚を新たにし、新しい行動の第一歩を踏み出す機縁としていただきたいと切望しております。

第3連区

「寺院仏壮結成に向けた研修会」報告

兵庫教区仏教壮年会連盟理事長

山本勝典



2015(平成27)年8月29日に本山より漢見寛惠講師をお迎えし、寺院仏壮未結成の門信徒、ご住職を含め56名の参加者のもと、「第3連区寺院仏壮結成に向けた研修会」が本願寺神戸別院を会場に開催されました。開会式後、漢見講師より、講義・問題提起を頂きました。

講義では自死問題を取りあげ、今現在壮年の年代(40才〜70才)が危ないと言われている。14年連続自殺者で壮年の方々が5割を占めていると話されました。

私たち浄土真宗の門徒としての



生き方は、死を命の終わりとするのではなく、浄土に生まれていく命ではないでしょうか。しかしながら、現実問題として私たちがお付き合っている社会は、本当に住みにくい社会となっています。そうであるが故に、共に手をたずさえていく仲間「仏教壮年」になることが大切な事ではないでしょうか。と問題

提起を頂きました。

その後、班別話し合いでは、参加者たちがそれぞれの現状を熱心に話し合われました。

田舎では過疎化が進み、それと同時に年々高齢化が進み若い世代が少なく人集めの苦慮と維持が難しくなってきたこと。一方の都会では、若い世代は多いが寺院に誘うことが難しい。寺院に寄せる思いも希薄になってきている。そして住職の仏壮結成に対する意欲、やる気が消極的である現状等、様々な意見が話し合われました。

そのような中で30年間仏壮活動されている先輩の活動事例発表がありました。

お寺の活性化には仏壮結成が不可欠であり、住職と門徒がコミュニケーションを常に図り、人と人との横の繋がりを強化すべきである事、また、仏壮結成にメリットがあるのかという寺院に対しては、あせらず、慌てず、何年も続けていく事が大切



である。とお話になりました。

最後に、参加者一同、良き友と出会い、良き仲間と一緒に、仏道を歩む同じ想いを持った朋友を作りましょう。という合い言葉にて研修会を終了しました。

仏教壮年会連盟「中央研修会」報告

仏教壮年会連盟 評議員(新潟教区)

研修委員会 委員 平澤茂則



2016(平成28)年2月20日(土)〜21日(日)本願寺伝道本部において標記研修会が開催され、全国27教区から54名の参加を頂きました。講師、連盟理事・研修委員等総勢72名が真摯かつ熱い2日間共に学び語り合いました。



初日の緊張を隠せない受付から始まり、3階大会議室での開会式の後、谷間講師から「研修会のねらい」として、本研修会の目的である「仏

壮活動の推進者を養成する」

ことと、「浄土真宗のみ教え」と題し世相を厳しくえぐる法話をいただきました。休憩後、高橋講師から講義「仏教壮年に求められるもの」と題し、話し合い法座の主題2点の問題提起をいただき、本研修の方向を示されました。①お寺とご縁のつくり方②生活信条の実践活動を問われました。引き続き班別話し合い法座に移り、各班9名の参加者と座長(研修委員が担当)に分かれ、提



起されたテーマについて活発な意見がかわされ、班別の意見として集約され、全体の発表へと続けました。

午後7時まで続いた研修後、会場を移し、自由な意見交換の懇親が行われ、全国各地の活動状況に花が咲き、一部では部屋で話し合いが続いたようです。

2日目は各班代表のパネルディスカッションが行われ、宮南靖副理事長が座長を務め①おみのりに出遇った喜び②仏

壮活動で困ったことと解決策をテーマとし、それぞれの視点から意見が発表されました。大原講師の的確な助言もいただき展開されました。

まとめとして高橋講師より①寺とは阿弥陀さまの本願を伝えるための場であり、住職や門徒の「物」ではない②仏法を次世代に伝えるのが我々仏壮ではないか③阿弥陀さまから安心できる居場所を与えられることを知るのが救われていると感じられました。と結んでいただきました。

最後に今回の研修会におそらく初めてであろう女性のご参加をいただき、「念仏者のたしなみとして、年に1回の本願寺参拝を課している。仏壮の発展のた



被災地はいま

東日本大震災を忘れない

東北教区教務所長
東日本大震災現地緊急災害対策本部長

晨 利信



東日本大震災以降、全国の仏壮会員の皆さまには物心両面にわたり多大なるご支援を賜りましたこと、この場をお借りし厚くお礼申しあげます。

震災から5年の歳月が経過した仙台市では、プレハブ仮設住宅の集約が3月から始まりました。仮設入居者に市内の借り上げ公営住宅に転居してもらい、10月には市内全18カ所の仮設



支倉町サロン(平成28年1月)
古来より日本に伝わる「吉祥結び」のピンブローチ作り

団地が解体されることが決定しています。また、津波被害のあった名取市閑上地区では、旧閑上小学校に保管されていた写真やランドセルなどの津波流失物3000点が、持ち主の現れぬまま、惜しまれながら廃棄処分されるというニュースもありました。

このように、被災地を取り巻く環境がより一層変化していくなかにあつて、東北教区現地緊急災害対策本部(東北教区災害ボランティアセンター)では、全国各地のボランティアの皆さまのお力添えをいただきながら被災者支援活動を継続しています。

2011(平成23)年6月より実施しているお茶会活動は、名取市の仮設8カ所や市民センターなどを会場に、昨年4月から今年1月までに計179回実施し、のべ2100人以上の皆さまと一緒させていたできました。住民の皆さまから

も『にしほん(西本願寺)さんのお茶会』と親しみを込めて呼ばれるほど、地域に根差した活動となっています。

また、「本願寺仙台北別院教化センター」を会場にしたサロンは、仙台市内のみならず仮設や復興公営住宅に住まいの方をお招きして開催しています。当ボランティアセンター主催の「支倉町サロン」、ストレッチや健康体操を取り入れた「すこやかサロン」、気仙沼市や南三陸町、福島県などから仙台市内に自主避難されている方々が集う同郷サロン「ひまわり会」「福島交流会」「南三陸さろん仙台会」など、どのサロンにも参加者の皆さまの笑顔が溢れ、にぎやかに交流を深めていただく貴重な場となっています。

お茶会やサロン活動に欠かせないお茶菓子は、これまでも全国各地から届けられる支援物資を提供し、たいへん好評をいただいております。引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

最後に、2017(平成29)年開催の全国仏教壮年大会は第1連区担当のもと、東北教区にて行われます。皆さまには、ぜひとも仙台にご参集賜り、震災から6年以上経過した被災地の復興状況をご覧いただくことで、教訓や学びを深め、「風化させない」という思いを新たにしたいと尊いご縁となりますようお願いいたします。

◆本年度新規単位登録名簿

2016(平成28)年3月10日現在

教区	組	寺号	单位名称
京都	城南	西光寺	西光寺仏教壮年会
大阪	茨田	浄徳寺	堂脇会
安芸	賀茂東	見正寺	見正寺仏教壮年会
安芸	佐伯西	立善寺	立善寺仏教壮年会
福岡	那珂	専宗寺	専宗寺仏教壮年会
福岡	那珂	専光寺	専光寺仏教壮年会
福岡	那珂	光明寺	光明寺仏教壮年会
鹿兒島	南隅	西樂寺	西樂寺仏教壮年会

仏壮バッジ

- 価格 2,000円(税込)
- 仏教壮年会連盟事務局にて販売
- 委託販売可能
※教区教務所を通し、当連盟へ申請

